

SDG s の視点と思考力育成を目指した 木育授業・講座の開発

所属・氏名 教育学研究科 田口 浩継

目的とするSDGsゴール



1. 教育・研究の概要

SDG s の視点と思考力育成を目指した、小学生・高校生を対象とした木育授業と一般市民を対象とした木育講座の開発を行うとともに、出前授業及び木育講座を実施し、その教育的効果を検証することができた。



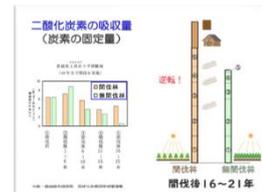
2. 教育・研究の目的

SDG s の視点と思考力育成を目指した木育授業・講座の開発を行うとともに、森林を適切に管理することは地球温暖化対策になることや、保水力を高めて土砂災害を防ぐ効果があることなどを、正しく伝え・思考させる出前授業及び木育講座を実施し、その効果を検証する。また、本学による取り組みをパッケージ化し熊大モデルとして全国に発信し、普及をはかる。

3. 今年度実施した教育・研究

・本年度中の教育・研究の取組

- ①教材の開発：森林の管理の重要性を伝えるデジタル教材
間伐により根が伸長し土砂災害防止効果があることを伝える教材
樹形の写真・実物の葉・板（香り）から樹種を当てクイズの開発
- ②小・中学校用カリキュラム開発：小学校や地域での授業の開発
中学校技術・家庭科用カリキュラムの開発
- ③教育的効果の検証：小・中・高等学校での実践と効果測定



・上記の取組によって生まれた成果

- ①小・中・高での授業実践：10月14日 中央区まちづくりセンター、10月29日 熊本市立京陵中学校、12月16日 県立芦北高等学校、12月18日 熊本市立楠小学校、12月21日 中央区まちづくりセンター、1月16日 甲佐町立白旗小学校、1月17日 県立北稜高等学校、計7回
- ②大人を対象とした木育講座の実施：7月7日 初級・熊大、10月27日 中級・熊大、11月24日 初級・小国町、2月2日 上級・熊大など計10回
- ③効果測定：木材や樹木に対する興味・関心の向上、周りの自然への関心や関わり方への意識の高揚がみられた。これらについては、学会で報告した。
- ④開発した教材やカリキュラムは、木育講座の受講者にデータとして配布するとともに、Webで公開し全国に発信、普及をはかった。



・今後の展望

森林・林業や木材利用に関する教育として木育が実践されているが、喫緊の課題とされる「脱炭素社会の実現」や「気候変動に関する具体的な対策」「豪雨による土砂災害や防災・減災」などSDGsの視点を育成する視点が十分ではなかった。木材の良さや利用の意義を学ぶという木育に関する既存の概念を拡張し、SDG s の視点や児童生徒の思考力の育成、さらには、学校教育における教科横断的な学習としてのSTEAM教育での実践も今後さらに重要となると言える。本研究は、これらにつながる教材や授業開発ができ、その教育的な効果も検証できた。引き続き、研究・実践していきたい。